

お名前	性別	卒業年	小学校	現住所
黒田 <small>たかし</small> 隆志	男性	昭31年 (1956)	清水野小	新城市

「 麦かり 」

(6年生当時の作文)

昭和30年発行文集「つどい」

新城町南部国語研究会発行より転載

お父さんは朝早く起きて、かまをといでいました。ぼくが、
「今日はどこにゆくのだん。」と聞くと、「いちきの畑へ麦かりに行くのだよ。お前も行かんか。」と言った。ぼくは「うん。」と言って、麦かりのできる服そうにかえて、お父さん、お兄さん、お姉さんたちといっしょに畑へ自転車で行ってみると、こちらから向こうまで6, 70 m ぐらいの長さだったので、びっくりしてしまいました。こんなに、今日1日でかれるかなあと、ぶつぶつ言っていると、お父さんに、「何ぶつぶつ言っとるのだ。」としかられてしまいました。

「さあ、お前もかれ。」と言ってかまをわたしてくれ、ざくりざくりとかり始めましたが、どうしてもうまくかれません。それを見たお父さんが、「わっはっは。」とぼくの方を見てわらいました。ぼくはおこれて「えい！」とすると手をスーッと切ってしまいました。お父さんは、「へただなあ。」と言ってかり方を教えてくれたので、うまくかれるようになった。

お姉さんに、「やい、麦かりのきょうそうをしまいか。」と言って、いばりました。「もし負けたら10円よこすんだぞ。」と言って、よういドンとざくりざくりかっしておると、ピーチク、ピーチクを青空の上で、「麦はさらさら、こがねのほなあみ。」とヒバリが歌を歌っているように聞こえました。ぼくは、それに合わせて麦をざくりざくりとかっておるうちに、お姉さんは勝っていたが、結ぶわらが終わったので持ちにいつておる間に負かしてしまいました。

ぼくがお金をもらおうとすると「いやだ。」と言ってくれない。するとお父さんが、「やくそくだ、10円やれ。」とおこられたので、つのがはえてしまったらしく、何とも言わんで、ぼくたちが休んでおる時、一人でざくりざくりとかっていきます。ぼくがお姉さんに、「えらいなあ、えらいなあ。」と言って頭をごつとなぐってやったら、おこってぼくをつかまえて、さっきとはんたいに、今度はぼくの頭をごつんとたたかれてしまいました。それを見たお父さんやお兄さんたちは、「わっは、わっは。」と大わらいをしていました。